

## 「地球温暖化対策の推進」についてのアンケート結果

県では、温室効果ガス排出を抑制する「緩和策」と、今後生じる可能性のある影響を回避・軽減する「適応策」を地球温暖化対策の両輪として進めており、今後、滋賀県低炭素社会づくりに関する条例や計画の改定を行う予定です。今般、現状や県民意識の把握を目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期：令和2年9月

★対象者：県政モニター 399人

★回答数：333人（回収率83.5%）

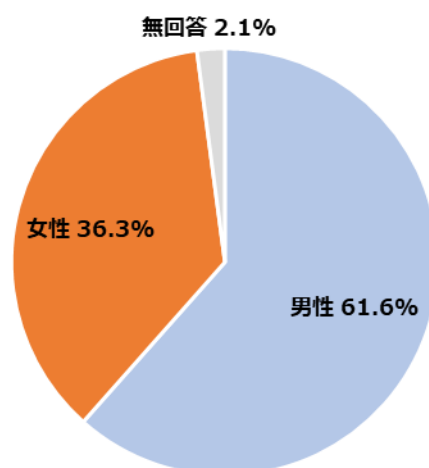
★担当課：琵琶湖環境部 温暖化対策課

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

### 【属性】

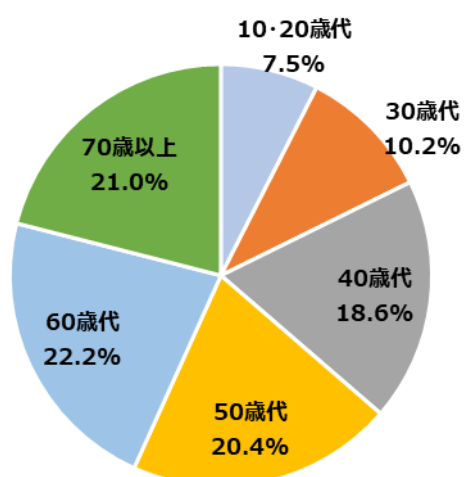
#### ◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	205	61.6
女性	121	36.3
無回答	7	2.1
合計	333	100.0



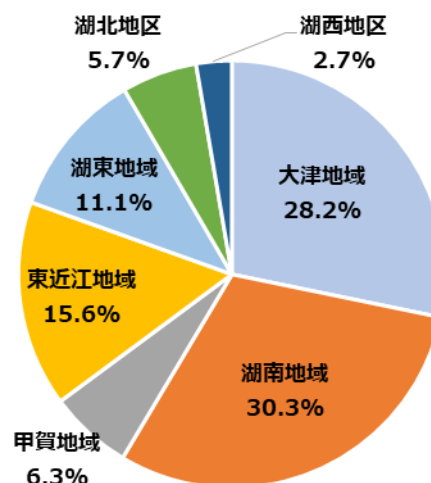
#### ◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	25	7.5
30歳代	34	10.2
40歳代	62	18.6
50歳代	68	20.4
60歳代	74	22.2
70歳以上	70	21.0
合計	333	100.0



◆地域

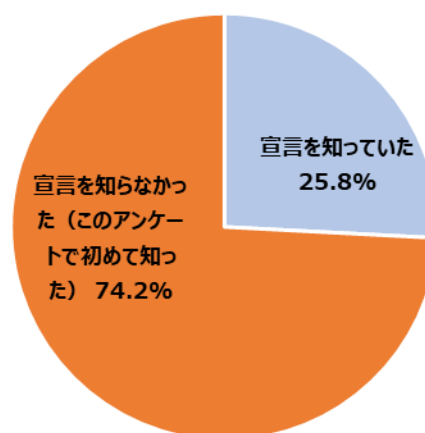
項目	人数（人）	割合（％）
大津地域	94	28.2
湖南地域	101	30.3
甲賀地域	21	6.3
東近江地域	52	15.6
湖東地域	37	11.1
湖北地域	19	5.7
湖西地域	9	2.7
合計	333	100.0



地球温暖化対策全体について

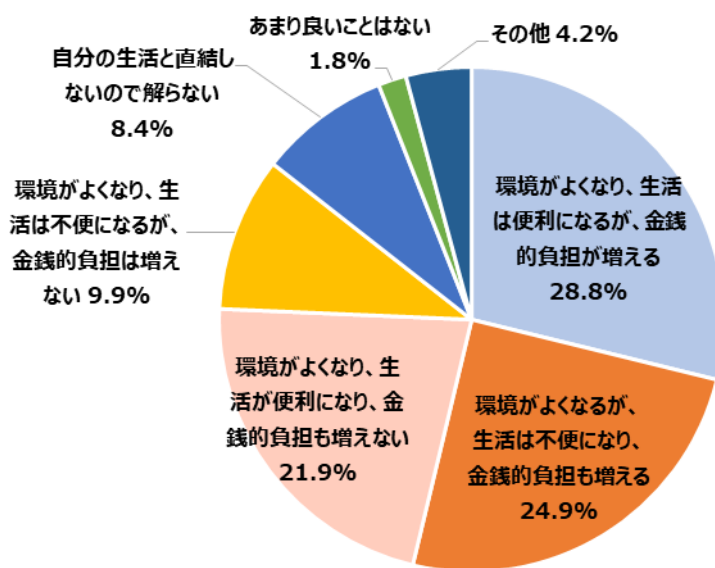
問1 滋賀県は今年1月に「県域からの2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」（しがCO<sub>2</sub>ネットゼロ）を宣言し、今後、脱炭素社会づくりに取り組む方針です。あなたは、この宣言を知っていましたか。（回答チェックは1つだけ n=333）

項目	人数（人）	割合（％）
宣言を知っていた	86	25.8
宣言を知らなかった（このアンケートで初めて知った）	247	74.2
合計	333	100.0



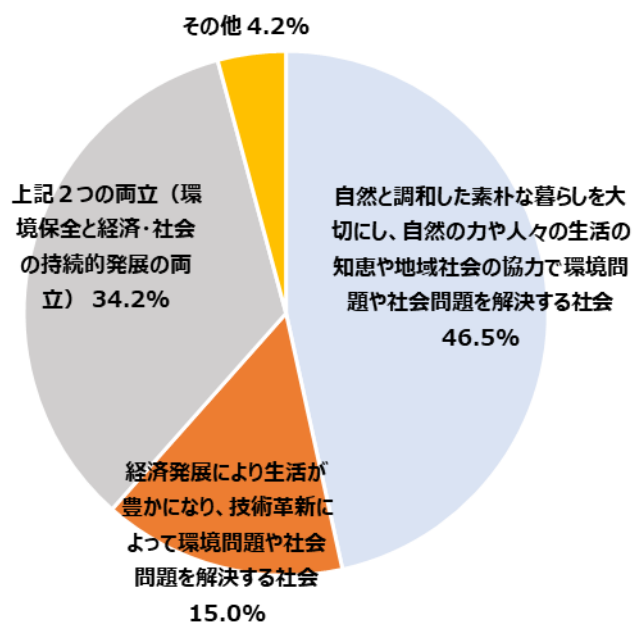
問2 温室効果ガスの排出と吸収の均衡が図られた「脱炭素社会づくり」に取り組むことのイメージに最も近いものはどれですか。(回答チェックは1つだけ n=333)

項目	人数(人)	割合(%)
環境がよくなり、生活は便利になるが、金銭的負担が増える	96	28.8
環境がよくなるが、生活は不便になり、金銭的負担も増える	83	24.9
環境がよくなり、生活が便利になり、金銭的負担も増えない	73	21.9
環境がよくなり、生活は不便になるが、金銭的負担は増えない	33	9.9
自分の生活と直結しないので解らない	28	8.4
あまり良いことはない	6	1.8
その他	14	4.2
合計	333	100.0



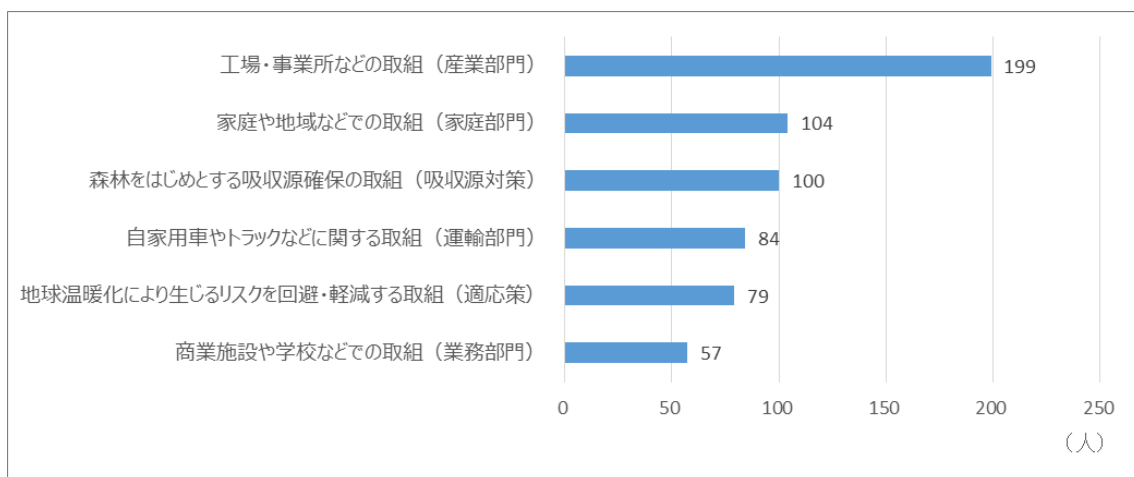
問3 あなたが感じる、滋賀の将来の社会像（2050年頃の理想の社会像）として、近いものは次のうちどれですか。（回答チェックは1つだけ n=333）

項目	人数（人）	割合（％）
自然と調和した素朴な暮らしを大切にし、自然の力や人々の生活の知恵や地域社会の協力で環境問題や社会問題を解決する社会	155	46.5
経済発展により生活が豊かになり、技術革新によって環境問題や社会問題を解決する社会	50	15.0
上記2つの両立（環境保全と経済・社会の持続的発展の両立）	114	34.2
その他	14	4.2
合計	333	100.0



問4 あなたは、地球温暖化対策・脱炭素社会づくりを進めるにあたって、どの分野に重点的に取り組んでいく必要があるとお考えですか。(回答チェックは2つまで n=333)

項目	人数(人)	割合(%)
工場・事業所などの取組(産業部門)	199	59.7
家庭や地域などでの取組(家庭部門)	104	31.2
森林をはじめとする吸収源確保の取組(吸収源対策)	100	30.0
自家用車やトラックなどに関する取組(運輸部門)	84	25.2
地球温暖化により生じるリスクを回避・軽減する取組(適応策)	79	23.7
商業施設や学校などでの取組(業務部門)	57	17.1



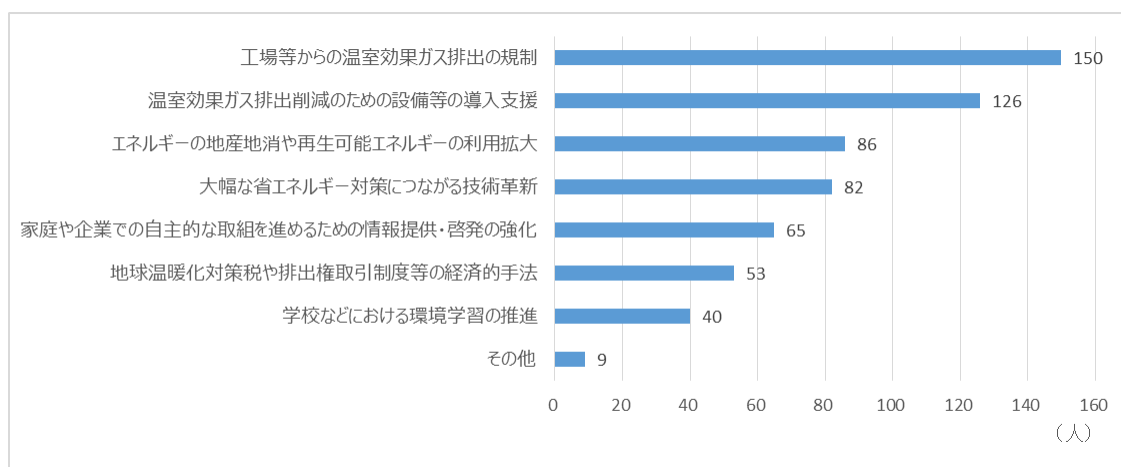
## 緩和策（温室効果ガスの排出を抑制する取組）について

問5 あなたは、緩和策を進めるに当たって、どのような手法が有効だとお考えですか。

（回答チェックは2つまで n=333）

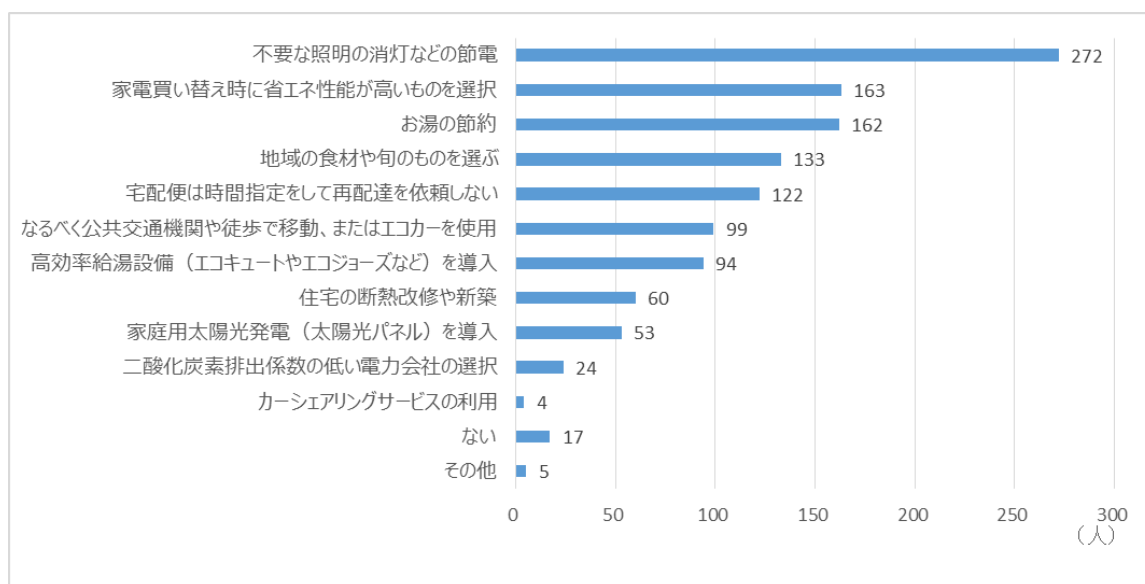
項 目	人数（人）	割合（％）
工場等からの温室効果ガス排出の規制	150	45.0
温室効果ガス排出削減のための設備等の導入支援	126	37.8
エネルギーの地産地消や再生可能エネルギーの利用拡大	86	25.8
大幅な省エネルギー対策につながる技術革新	82	24.6
家庭や企業での自主的な取組を進めるための情報提供・啓発の強化	65	19.5
地球温暖化対策税や排出権取引制度（※キャップ&トレード制度）等の経済的手法	53	15.9
学校などにおける環境学習の推進	40	12.0
その他	9	2.7

※キャップ&トレード制度・・・各事業所の排出枠を定め、事業所間で排出枠の移転、獲得を認める制度。温室効果ガスの総排出量削減に有効とされている。



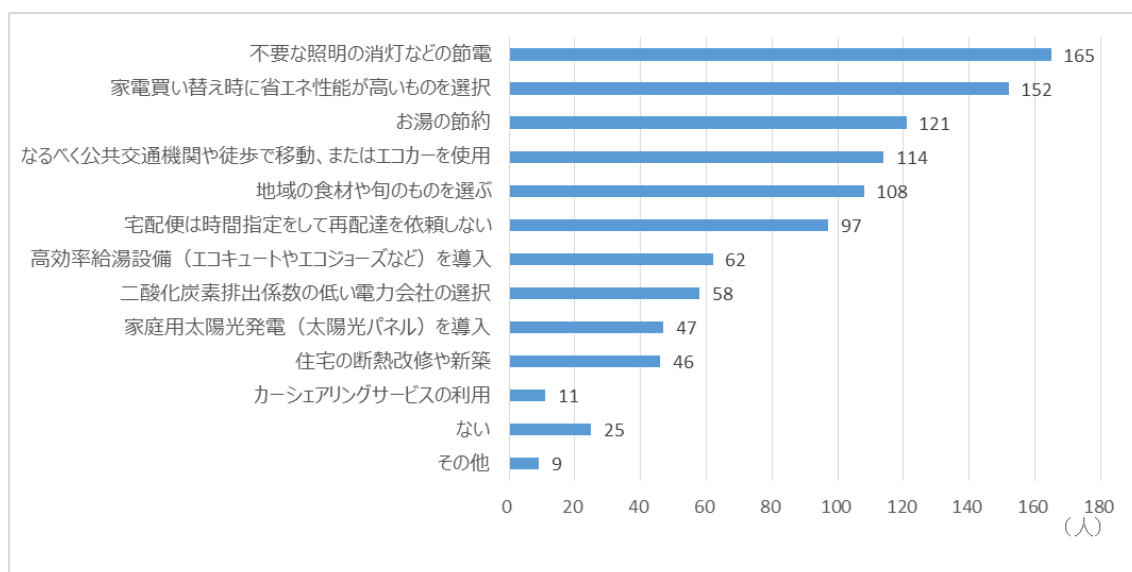
問6 あなたが、温室効果ガスを削減するために、現在、取り組んでいることはありますか。（「ない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=333）。

項目	人数（人）	割合（%）
不要な照明の消灯などの節電	268	80.5
家電買い替え時に省エネ性能が高いものを選択	163	48.9
お湯の節約	162	48.6
地域の食材や旬のものを選ぶ	133	40.0
宅配便は時間指定をして再配達を依頼しない	122	36.6
なるべく公共交通機関や徒歩で移動、またはエコカーを使用	99	29.7
高効率給湯設備（エコキュートやエコジョーズなど）を導入	94	28.2
住宅の断熱改修や新築	60	18.0
家庭用太陽光発電（太陽光パネル）を導入	53	15.9
二酸化炭素排出係数の低い電力会社の選択	24	7.2
カーシェアリングサービスの利用	4	1.2
ない	17	5.1
その他	5	1.5



問7 あなたが、温室効果ガスを削減するために、今後、取り組もうと思うことはありますか。（「ない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=333）

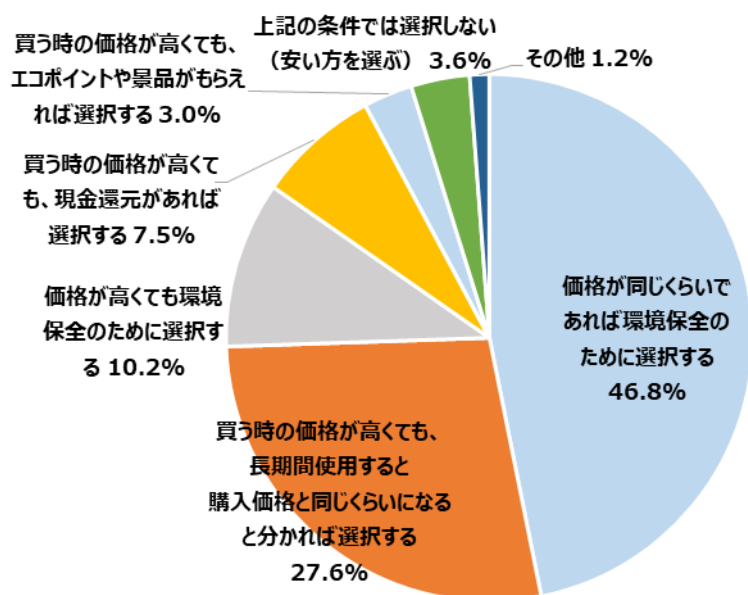
項目	人数（人）	割合（%）
不要な照明の消灯などの節電	165	49.5
家電買い替え時に省エネ性能が高いものを選択	152	45.6
お湯の節約	121	36.3
なるべく公共交通機関や徒歩で移動、またはエコカーを使用	114	34.2
地域の食材や旬のものを選ぶ	108	32.4
宅配便は時間指定をして再配達を依頼しない	97	29.1
高効率給湯設備（エコキュートやエコジョーズなど）を導入	62	18.6
二酸化炭素排出係数の低い電力会社の選択	58	17.4
家庭用太陽光発電（太陽光パネル）を導入	47	14.1
住宅の断熱改修や新築	46	13.8
カーシェアリングサービスの利用	11	3.3
ない	25	7.5
その他	9	2.7





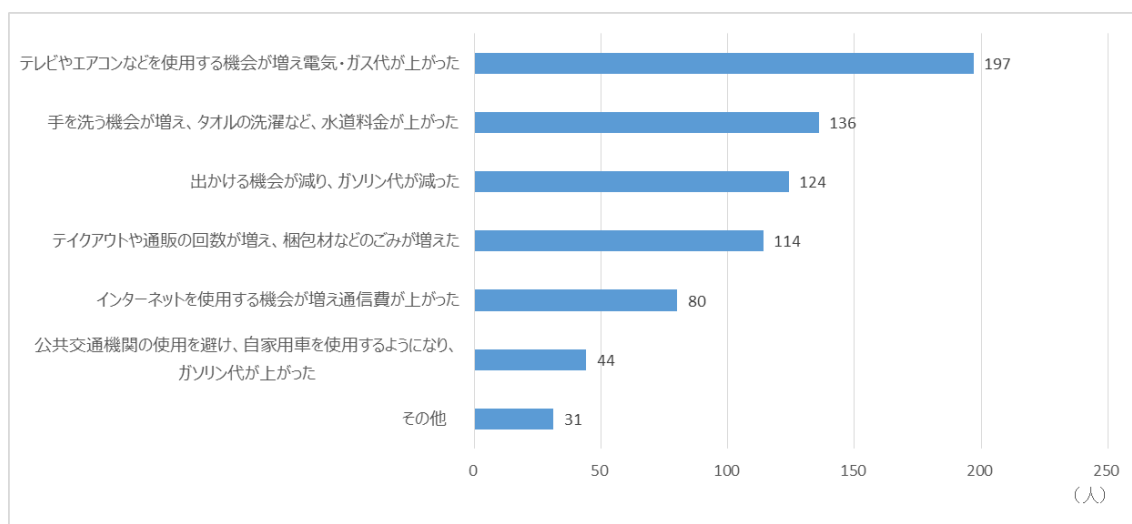
問8 【家庭部門の取組について】家電の買い替えをするとき、どのような場合に、省エネ性能の高い家電製品（LED照明、省エネ性能評価の☆印の多いエアコン、冷蔵庫、テレビなど）を選びますか。（回答チェックは1つだけ n=333）

項目	人数（人）	割合（%）
価格が同じくらいであれば環境保全のために選択する	156	46.8
買う時の価格が高くても、長期間使用すると購入価格と同じくらいになると分かれば選択する	92	27.6
価格が高くても環境保全のために選択する	34	10.2
買う時の価格が高くても、現金還元があれば選択する	25	7.5
買う時の価格が高くても、エコポイントや景品がもらえれば選択する	10	3.0
上記の条件では選択しない（安い方を選ぶ）	12	3.6
その他	4	1.2
合計	333	100.0



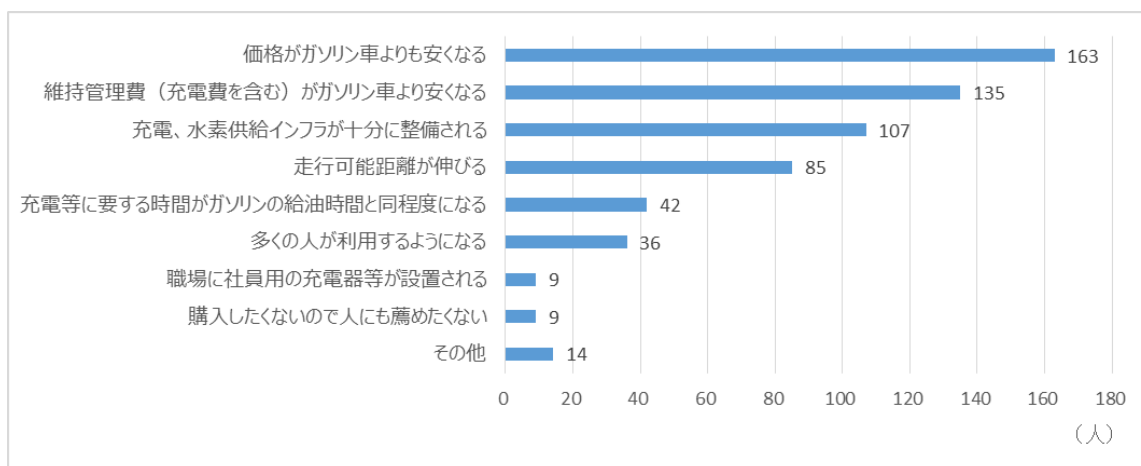
問9 【家庭部門の取組について】新型コロナウイルスの感染拡大を受け、生活は大きく変わりましたが、家庭での変化として、次のうちあてはまるものはありますか。（回答チェックはいくつでも n=333）

項 目	人数（人）	割合（%）
テレビやエアコンなどを使用する機会が増え電気・ガス代が上がった	197	59.2
手を洗う機会が増え、タオルの洗濯など、水道料金が上がった	136	40.8
出かける機会が減り、ガソリン代が減った	124	37.2
テイクアウトや通販の回数が増え、梱包材などのごみが増えた	114	34.2
インターネットを使用する機会が増え通信費が上がった	80	24.0
公共交通機関の使用を避け、自家用車を使用するようになり、ガソリン代が上がった	44	13.2
その他	31	9.3



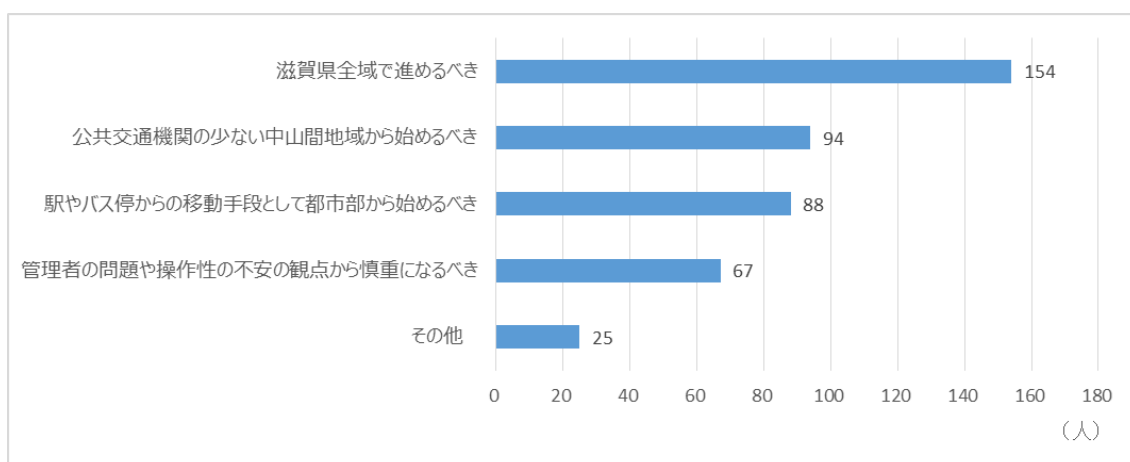
問10 【運輸部門の取組について】ガソリン車（自動車）からの温室効果ガスを削減するためには、次世代自動車（EV：電気自動車、PHV：プラグインハイブリッド自動車、FCV：燃料電池自動車）の普及が不可欠ですが、なかなか普及しないのが現状です。あなたが次世代自動車を選ぶとしたら、どのようなきっかけが必要と考えますか。（回答チェックは2つまで n=333）

項目	人数（人）	割合（%）
価格がガソリン車よりも安くなる	163	48.9
維持管理費（充電費を含む）がガソリン車より安くなる	135	40.5
充電、水素供給インフラが十分に整備される	107	32.1
走行可能距離が伸びる（現状のEV走行可能距離は50～100km）	85	25.5
充電などに要する時間がガソリンの給油時間と同じくらいになる	42	12.6
多くの人が利用するようになる	36	10.8
職場に社員用の充電器等が設置される	9	2.7
購入したくないので人にも薦めたくない	9	2.7
その他	14	4.2



問11 カーシェアリング、自転車シェアリング、超小型モビリティ（1～2人乗りの電気自動車）等を活用したまちづくり等を進めている自治体が全国にあります。これについてどう思いますか。（回答チェックはいくつでも n=333）

項目	人数（人）	割合（%）
滋賀県全域で進めるべき	153	45.9
公共交通機関の少ない中山間地域から始めるべき	92	27.6
駅やバス停からの移動手段として都市部から始めるべき	88	26.4
管理者の問題や操作性の不安の観点から慎重になるべき	65	19.5
その他	25	7.5

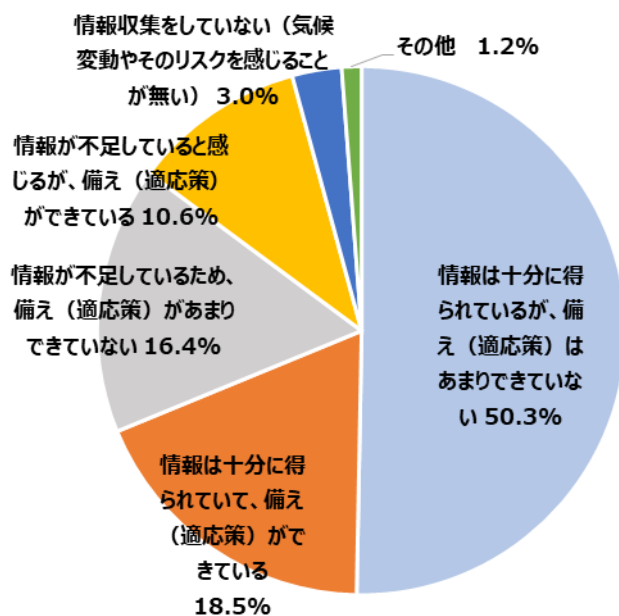


適応策（気候変動により生じる被害を回避・軽減する取組）について

問12 昨今、県内でも、大雨や猛暑など気候変動の影響が顕著に現れています。

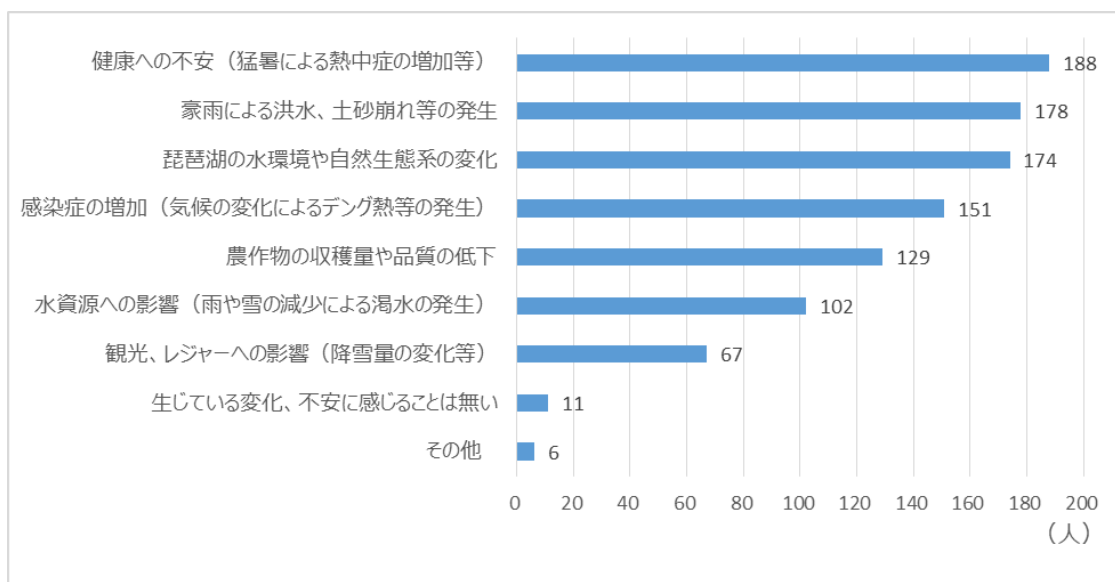
熱中症注意情報、浸水リスク情報や土砂災害警戒情報等は十分に得られていますか。また、備えはできていますか。あなたの状況に、最も近いものをお選びください。（回答チェックは1つだけ n=333）

項目	人数（人）	割合（％）
情報は十分に得られているが、備え（適応策）はあまりできていない	166	49.8
情報は十分に得られていて、備え（適応策）ができています	61	18.3
情報が不足しているため、備え（適応策）があまりできていない	57	17.1
情報が不足していると感じるが、備え（適応策）ができています	35	10.5
情報収集をしていない（気候変動やそのリスクを感じる事が無い）	10	3.0
その他	4	1.2
合計	333	100.0



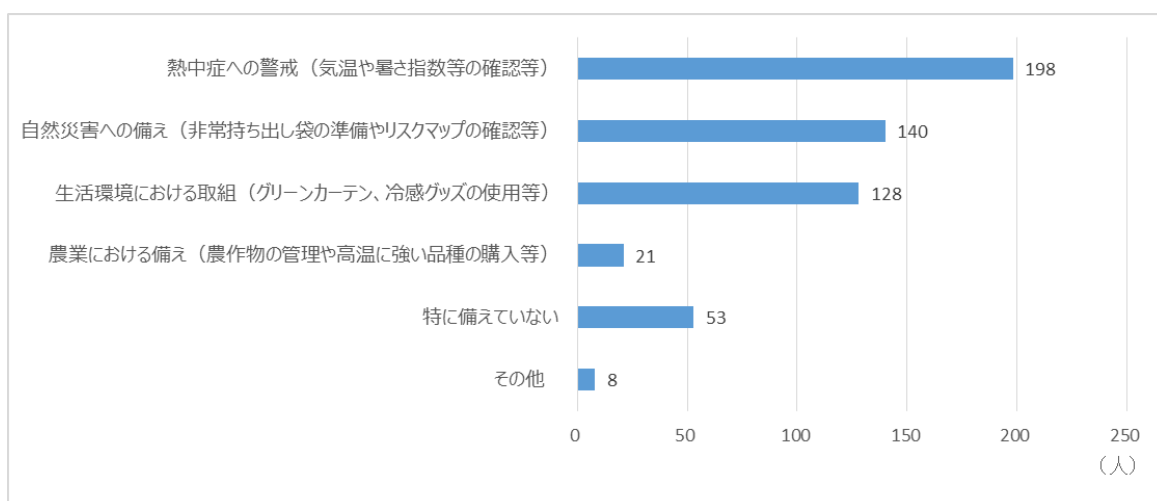
問13 次のうち、あなたの身の回りで生じていると感じる変化、不安に感じることはありますか。（「生じている変化、不安に感じることは無い」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=333）

項目	人数（人）	割合（％）
健康への不安（猛暑による熱中症の増加等）	188	56.5
豪雨による洪水、土砂崩れ等の発生	178	53.5
琵琶湖の水環境や自然生態系の変化	174	52.3
感染症の増加（気候の変化によるデング熱等の発生）	151	45.3
農作物の収穫量や品質の低下	129	38.7
水資源への影響（雨や雪の減少による渇水の発生）	102	30.6
観光、レジャーへの影響（降雪量の変化等）	67	20.1
生じている変化、不安に感じることは無い	11	3.3
その他	6	1.8



問14 あなたが、気候変動の被害を回避するために取り組んでいることはありますか。  
 (「特に備えていない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=333)

項目	人数(人)	割合(%)
熱中症への警戒(気温や暑さ指数等の確認等)	198	59.5
自然災害への備え(非常持ち出し袋の準備やリスクマップの確認等)	140	42.0
生活環境における取組(グリーンカーテン、冷感グッズの使用等)	128	38.4
農業における備え(農作物の管理や高温に強い品種の購入等)	21	6.3
特に備えていない	53	15.9
その他	8	2.4



問15 その他、地球温暖化対策について御意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・ここ数年の自然災害は温暖化が原因ではないかと思われる。このような事態が続けば各地で被災者が増えるばかり。
- ・家庭で対策をとっても効果が数値として見えないのが課題でないか。
- ・この問題は個人で取り組もうと思ってもなかなか難しい問題であり、やはり、行政主導型で強力に取り組まなければならないと思う。
- ・テーマが大きすぎるけれど、一人一人が考えていかなければいけない問題だと思う。
- ・企業独自で環境問題へ取組めというのでは企業として滋賀県に全く魅力を感じないだろう。環境関係設備への補助や税負担の軽減が必要だろうと思います。
- ・地球温暖化は確実に進んでいるのに、対応策が進んでいないと感じる。
- ・身近にできることから、家族で考える必要がある。

- ・里山の有効活用、荒れた山に手を入れることで災害の低減、低炭素社会化に繋がると思います。
- ・2050年までに実質ゼロに対し県民の認識はそれを知らない、地球温暖化が待ったなしの状況だとわかっていない人が多いです。近年増えている異常気象、大型台風がいくつも上陸する、豪雨、土砂崩れ、気温の上昇（夏暑すぎる、冬も暖冬）が地球温暖化の影響であると認識していません。徐々に増えたり上がったりするので認識しにくいのだと思います。豪雨、台風だけ考えてもこの頻度ですと続く、また増えていくと考えると対策しないではいはずがありません。事業系へはCO2排出制限を、運輸系へは公共交通機関や自転車などへ転換する方策を、家庭系へはレジ袋有料化のようなインパクトのある制限を、商業系へはフードマイレージの観点から輸入品を減らす、なくす。国産でも地産地消をもっと進める、地産地消の売り場面積を増やす、学校などでは給食のフードマイレージを考えて輸入物を減らし地産地消の材料調達へ転換する、などをすぐにでも実施すべきです。
- ・コロナで少し危機感を持った人たちに理解をひろめて家庭でできることを実践してもらいたい。
- ・企業も家庭も努力目標のみで、自主的な対策に任せられている部分が多いので、対策している人や企業がメリットを感じられるような、助成や支援を打ち出していただきたいと思います。
- ・県で取り組まれていることをあまり知らず、ピンときませんでした。パンフレットなど欲しいと思いました。
- ・自動車の利用や森林伐採など、我々の生活に直結した行動が地球温暖化の原因なので、その原因について追及し、各位が可能な範囲で取り組んでいけば、個人の活動でも、大きな力となり、地球温暖化改善の要因に直結すると思います。子供たちは、地球温暖化について、その原因についても学校の教育の場で学習し、子供のうちから地球温暖化を問題視して、対策を常に考えられるような環境にしていきたいです。
- ・実感が少なく備えがあまりできていないのが実情。自ら改善していく必要があると考えています。